

中芸高だより

平成23年度
第1号
その1



「分かりきったことだけど分かっ
ていないこと」
校長 山川 陽司

新年度も五月を迎え、青葉をわたる風が心地よく感じる季節となりました。時が過ぎるのを早く感じます。生徒の皆さんの中にも小学生や中学生のころと比べて、なか、あつと言う間に時が過ぎていくなあと感じる人も多いのではないのでしょうか。特に三年生は、あと半年もすればほとんどの人が進路を決定して、卒業を待つばかりという体制になっていなければなりません。準備は万端でしょうか。

小学校や中学校の時代は、進級する時に特に意識せずとも次の年には新しい学年になり、一つ上の校区の中学校にも進級できました。しかし、高校への進学では県内の高校の中から、それぞれの進路希望に応じて学校を選択し、入学者選抜検査という関門を突破して、高校へ入学をしました。少し大きさに言うと、県内の中学三年生という同年齢の集団を競争相手に、入学者選抜を勝ち抜いたというわけです。

さて、これから10年先、生徒の皆さんも20歳代半ばになり、立派な成人となります。社会の中で、どのように生活を送っているのでしょうか。自立した社会人になるために、この高校時代こそが次の進路選択にとって大切な時期です。

高校を卒業する時には、少なくとも就職か進学か進路決定をしてください。「私は、僕は、自分フリーター、アルバイトでよい」というのであれば就職試験を受けましょう。就職するならば新卒枠が断然有利です。それでも、高卒後三年間は新卒枠の試験を受けられるので、競争相手が現役生だけとは限りません。また、名の知られた県内企業は全県域から、県外企業などは全国から求人に応募がありますから、厳しいことには変わりはありません。

新卒枠を逃して高卒後5年くらい経って、一般の就職試験を受けるとなると、更に厳しいものがあります。それは、企業側も、より多くの人の中からより良い人材、資格を持った人材を選ぼうとするからです。

大学進学も同年代だけの競争ではなく、全国の現役の高校三年生だけではなく、一浪や二浪をして力を蓄えた受験生とともに入試を受けなければなりません。人気のある大学はますます難しくなります。



では、自立した社会人となるためには、どうすればよいのでしょうか。希望の進路を叶えた人たちは、どのようにしてその進路希望を実現できたのでしょうか。

分かり切ったことです。自分の目標に向けて努力した人が希望を実現できたのです。しかし、この分かり切ったことが、なかなかできないのです。一見分かっているけれど、実は分かってないのかもしれない。いや、行動に移す覚悟ができないのかもしれない。

まだ、目標が定まらず毎日の努力ができていない人。ぜひ、覚悟を決め、目標を定め、一日30分でもよいので、目標に向けた努力を毎日、毎日行ってください。目標を一人で決められない人は、先生や家族の方に相談するのも良いと思います。決めるとは自分です。たとえ第一目標がかなえられなかったとしても、努力をしたことは無駄にはなりません。生徒の皆さんが、目標に向けて努力する一年となることを願っています。

平成二十三年度入学式

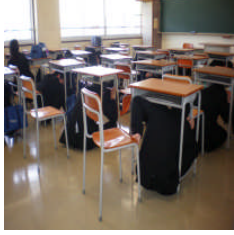
四月七日(木) 入学式が行われ、昼間部二十四名、夜間部六名が入学しました。

入学式では学校長の式辞の後、新入生を代表して植野さんが「部活動や学校行事などに積極的に取り組み、自分自身の進路を決めるために、精一杯努力することを誓います。自分自身の進路を決めばました。式終了後には、教職員の紹介がありました。新入生たちは、今日から始まる高校生活への期待と不安を胸に中芸高校生としての高校生活をスタートさせました。



防災避難訓練

四月二十八日(木)5、6限に、本年度より併設された山田養護学校田野分校と合同で、防災避難訓練が実施されました。視聴覚室で、高知県危機管理部地震・防災課の森本剛正さんから地震防災についての話を聞きました。その後、地震による火災を想定した避難訓練をしました。生徒たちは、これから五十年の間に必ず起きるといわれている南海大地震に備えて、消火器実演など真剣に取り組んでいました。



対面式・部活動紹介

翌八日には二・三年次生と新入生との対面式が行われ、生徒会長の有働君が歓迎の挨拶を、新入生を代表して平野さんがお礼の言葉を述べました。対面式後、部活動紹介が行われ、文化部・体育部が、それぞれの活動内容を新入生にアピールしました。



平成23年度前期生会役員

- ★ 会長 箕浦 君
- ★ 副会長 有働 君
- ★ 書記 遠藤 さん
- ★ 会計 川島 さん
- ★ ボランティア担当 和田 さん



ホームデー

五月六日(金)に、「春のホームデー」を行いました。1Hと2Hは体育館でレクリエーションを行いました。3Hは室戸青少年自然の家でレクリエーションを行ったあと、バーベキューを楽しみました。天候が少し心配されましたが、大きく崩れることはなく、ピア・サポートホームごとに交流を深め、有意義な一日を過ごすことができました。

